

9 研究等における医学倫理的配慮について ((1)~(3)は必ず記入のこと)

(1) 研究等の対象とする個人の人権擁護

本研究はすでに治療が行われている患者を対象として後方視的に臨床情報のみを収集する。
住所、氏名、生年月日は不要であり、プライバシーは守られる。
研究データの取り扱いは研究者のみが行う。
パスワード設定がされたパソコンを使用し、データが外部へでないようにする。

(2) 研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

本研究は一般診療を行った結果得られた、住所、氏名、生年月日以外の臨床情報を後方視的に検討することから、新たなインフォームド・コンセントの取得は行わない。
本研究を行う川崎医科大学附属病院の当教室のホームページ上で被験者に対して本研究の内容等を説明する。
本研究に対する問い合わせ、苦情、研究への参加取り止めに希望される対象者には、ホームページ上に記載されている研究代表者へ連絡して頂き、代表者が対応する。

(3) 研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性に対する配慮

本研究は一般診療を行った結果得られた、住所、氏名、生年月日を伴わない臨床情報を後方視的に検討することから、本研究に参加することにより生ずる個人の不利益および危険性はない。

(4) そ の 他

費用負担及び謝礼

臨床腫瘍学の研究費で実施する。謝礼はない。

利益相反

主任研究者 山口佳之は中外製薬からの収入があるが、学内利益相反委員会に当該内容を申告し、利益相反は適正に管理されている。